

第6学年 国語科学習指導案

2組 児童 男子14名 女子17名 計31名 指導者 伊藤 啓

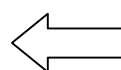
1 筆者のものの見方を生かして、絵の鑑賞文を書こう

教材『鳥獣戯画』を読む 著者名 高畑 勲 「この絵、私はこう見る」 (光村図書6年下)

<身に付けたい力>

- 絵と文章を対応させ、筆者の表現の仕方に着目して読み取る力
- 文章を読んで考えたことを発表し、自分の考えを広げる力
- 絵から読み取ったこと、感じたことを書く力

言語活動



絵の鑑賞文を書く

2 単元について

第5・6学年における読むこと目標は「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身につけさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる」である。また、書くこと目標は「目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成を考えて文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる」が挙げられている。

本単元は、「読むこと」の絵と文章とを対照しながら効果的に読む読み方や、事実と感想、意見などとの関係を押さえ自分の考えを明確にしながら読んだりする学習を、「書くこと」の「絵の鑑賞文をかこう」の言語活動にて活用することを意図して設定した。また、南城小美術館を開き、6年生に名画を紹介し、自分のものの見方を伝えるという目的を念頭に置き、学習を展開していく。このように、「読むこと」「書くこと」を組み合わせることにより、「読むこと」で身につけた力を使って「鑑賞文」を書くことが、それぞれのねらいをより効果的に実現することができると考え、領域を複合させた単元を構想した。

本教材『鳥獣戯画』を読むは、筆者の絵に対する解説と解釈・評価が述べられている評論文である。筆者のものの見方(解釈・評価)とその対象が明確で、読み手が納得したり自分の見方と比較したりできる教材である。また、絵と文章を照らし合わせて読むように書かれており、「文章を図表やグラフ、絵などと合わせて読む力」を育てたり、「書き出し・文末表現・話し言葉・評価の言葉」など特徴的な書き方がされており、絵の魅力を伝えるための筆者の工夫を学んだりすることができる教材である。

筆者のものの見方をとらえさせるために、「着眼点、評価の仕方」を視点とし、絵と文章を照らし合わせながら読み取らせていく。また自分のものの見方を伝えるために、「書き出し・文末表現・話し言葉・評価の言葉・引用」を視点とし、筆者の表現の工夫を読み取らせ、活用できるようにしていく。グループ交流では、同じ題材でもいろいろな受け止め方があることを知り、友だちの考え方をすることで自分のものの見方を広げるとともに、交流することの良さを実感させていく。

【単元目標】

- 事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことができる。
- 文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(指p75身に付けたい力)
- 事実と感想、意見などを区別するとともに、見た絵の様子を簡単に書いたり詳しく書いたりすることができる。(指p102)

<単元の評価規準>

国語への関心・意欲・態度

- ・絵巻物や「絵を紹介する」ことに興味を持ち、自分の絵の鑑賞文に生かすために、筆者の着眼点や評価の仕方・表現の工夫について読もうとしている。

読む能力

- ・絵と文章を照らし合わせながら、筆者の着眼点や評価の仕方、表現の工夫をとらえている。(1)ウ
- ・文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。(1)オ

書く能力

- ・絵の描写や解釈、感想を区別して書くとともに、絵全体の印象を大まかに、着眼部分を詳しく書いている。(1)ウ
- ・鑑賞文の構成や表現の仕方に着目し、具体的に助言している。(1)カ

言語についての知識・理解・技能

- ・様々な表現の工夫に気付き、自分の表現に活用している。(1)イ(ケ)

<児童の実態>

子ども達はこれまで、説明的な文章の学習として「新聞を読もう」「天気を予想する」では、記事の書き方に目を向けた読み方や図表を用いた筆者の意図と説明の工夫をとらえる読み方を、「見立てる／生き物は円柱形」では筆者の考えをとらえ自分の考えをもつことを学習してきた。また「感情／生き物はつながりの中に」では文章構成や要旨をとらえて読み、筆者の考えや表現に対して自分の考えを持つ学習をしてきた。これらの学習を通して、「読むこと」については、文章構成や表現の工夫をとらえた読み方、自分の考えをもつ読み方ができるようになってきた。しかし、学習した内容を自分の表現に生かしたり、考えを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることは十分とは言えない。

隣同士のペア学習やグループ学習には抵抗なく取り組んでいるが、自分の考えを一方向的に伝えることはできるものの、互いの考えに対して視点を持って意見を述べたり、交流したことを踏まえて自分の考えを深めたりすることの難しい児童もいる。

3 学習指導計画（全9時間）

<本単元における必要な既習事項>

- ・要旨
- ・自分の考えを明確にしながらか読むこと
- ・表現の工夫をとらえて読むこと

時	目 標	学 習 活 動	評価規準（評価方法）
第一次 単元の学習のねらいを知り、学習の見通しを持つ			
1	「絵についての鑑賞文を書く」という学習のゴールを知り、学習計画を立てることができる。	○モデル文を読んだり絵を見たりして、学習のねらいを知る。 ○学習課題を確認し、単元の見通しを持つ。 ・『鳥獣戯画』を見て気づいたこと、感じたことを話し合う。 ・並行読書の仕方を確認する。	【関】 絵を紹介することに関心を持ち、鑑賞文を書くという単元の学習の見通しを持って筆者の見方に関心を持っている。 (活動の様子)
第二次 筆者の考えたことに対する自分の考えを読み深める。			
2	絵と文章を対照させて、筆者の見方を捉えることができる。	○鳥獣戯画の絵と文章を対照させながら読み、筆者の見方を捉える。 ・筆者の見方をとらえる読み方を確かめる。 ・確かめた観点に沿って、文章を読む。	【読】 絵と対応する文章を見つけ、筆者の見方を捉えることができている。(教科書の書き込み)
3	筆者の表現の工夫や評価の言葉を読み取る。	○筆者が自分の見方を伝えるために使っている表現の工夫や構成の工夫について整理する。 ・P143 の視点に沿って、表現や評価の工夫をノートにまとめさせる。	【読】 筆者の着眼点と評価をノートにまとめている。(発言・ノート)
4	絵巻物についての筆者の説明と評価をとらえることができる。	○絵巻物について、筆者がどのように説明し、どう評価しているか、書いてあることからまとめる。 ○作品を評価する語彙を集める。	【読】 筆者の絵巻物への評価を捉えている。(発言・ノート)
5	鳥獣戯画の別の場面についての鑑賞文を書くことができる。	○鳥獣戯画の別の場面について、筆者になりきって鑑賞文を書く。 ・P141 の「たいせつ」の三つの観点を押さえながら鑑賞文を書く。	【書】 鳥獣戯画の絵について、着眼点を持って評価している。(ノート)
第三次 身についた力を活用して絵の鑑賞文を書く。			
6 本 時	絵についての着眼点を持ち、読み取ったことや感じたことを付箋紙に書くことができる。	○143 ページから選んだ絵について読み取ったこと、感じたことを付箋紙に書く。 ・着眼点をワークシートに書きこむ。 ・着眼点と評価を付箋紙に書いて貼る。 ○着眼点や感じたことを交流する。 ・前時のワークシートを使いメモしたことを交流する。	【書】 自分なりの着眼点と評価を持つことができている。 (ワークシート・付箋紙) 【話・聞】 友だちの着眼点や表現の良さに気づき、自分の考えを深めている。 (付箋紙・発言)
7	選んだ絵についての鑑賞文を書くことができる。	○前時のワークシートと付箋紙をもとに絵の鑑賞文を書く。 ・着眼点毎に自分の評価を文章に書く。 ・記述例や表現例をもとに書く。 ・読む人の興味を引くように表現を工夫しながら書く。	【書】 読む人が「おもしろい」と思うような表現を工夫しながら絵についての鑑賞文を書いている。 (ワークシート)
8	鑑賞文を発表し、表現の工夫を交流することができる。	○鑑賞文を発表し、表現の工夫を交流する。 ・表現の工夫について気付いたことを付箋紙に書いて交流する。	【読】 鑑賞文を交流し合い、表現の工夫を見つけることができる。 (付箋紙)
9	学習をふり返り、感想をまとめることができる。	○「南城小美術館」を開き、鑑賞会をする。 ・絵と鑑賞文を対照させながら、絵の特徴を伝える。 ○学習を振り返りまとめる。 ・自己評価する。 ・これからどんな場面で活用していくか考える。	【関】 絵と鑑賞文を対照させながら、絵の特徴を伝えている。(発表)

<教材の発展>



6年「言葉は動く」



中1年「ダイコンは大きな根？」

4 本時の指導 (6 / 9)

(1) 目標

○絵についての着眼点を持ち、読み取ったことや感じたことを付箋紙に書くことができる。

(2) 本時の指導にあたって

・絵についての着眼点や読み取ったこと、感じたことをグループで交流することで自分の鑑賞を深められるようにさせる。

(3) 展開

段階	学習活動・学習内容	指導上の留意点・評価
つ か む ・ 見 通 す 5 分	1 前時までの学習を振り返る。 ・絵の鑑賞文の観点を確かめる。 2 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">絵の魅力を見つけよう。</div> 3 課題解決の見通しを持つ。 ○付箋紙の記入の仕方 ○着眼点や描き方の説明、評価の語彙の確認	・学習計画表で単元における本時の位置づけを確かめながら学習課題を確認する。 ・前時までの学習で登場した着眼点や描き方の説明、評価の語彙を確かめ、それらも使って作品の見どころを見つけるという学習の見通しを持たせる。
考 え る 10 分	4 一人学びをする。 ○着眼点と描き方、評価を付箋紙にメモし、ワークシートに貼る。 ・黄色い付箋紙に書く。	・絵の「どこが」「どう描かれていて」「こう読み取った、感じ取った」を「着眼点」「描き方」「評価」の視点で付箋紙に書かせる。 ・前時までに出了着眼点、描き方、評価の語彙を掲示し、それらも使いながら書けるようにする。
深 め る 学 び 合 い の 場 25 分	5 学び合う (1) グループ交流 ○付箋紙に書いた着眼点と評価をグループで発表し交流する。 ①着眼点 ②描き方 ③評価 ○感想を伝え合う。 (2) 全体交流 ○グループ交流を受けて、友だちのよい考え、真似たい考えを交流する。 (3) 考えを深める ○交流で深まった自分の考えを付箋紙にメモし、ワークシートに貼る。 ・桃色の付箋紙に書く。	・話形を提示し、着眼点と評価が明確になるように発表させる。 ・聞く時には「何が」「どう描かれている」、「どう描かれていて」「どう思った」などの2つの視点を基本として感想をメモさせる。 ・感想を交流し、自分の考えに自信を持たせたり、友だちの考えの良さに気づき自分の考えに生かせたりできるようにする。 ・他の絵についての着眼点、描き方、評価も交流することで、視点を広げられるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <評価> ・交流によって自分の考えを深めることができる。 (発言・付箋紙) ・個への支援：メモした感想をもとに、観点ごとに既習の言葉と結び付け、自分の考えに生かせるように働きかける。 </div>

<p>ま と め る</p> <p>5 分</p>	<p>6 学習のまとめをする。 ○学習したことを振り返る。</p> <p>7 本時の学習を振り返る (1) 自己評価をする。 ＜自己評価の観点＞ ・絵の魅力を見つけることができたか ・自分の考えを深められたか</p> <p>(2) 学習感想を書く。 ＜学習感想の観点＞ ・自分の力になったこと、高まったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> 絵の魅力を見つけて伝える多様な着眼点や言葉、交流することで考えを深めるよさを確認する。 今日の学習を通して、身につけた力が実感できるように2項目の観点で振り返りをさせる。 単元計画で、次回、本時付箋紙にメモしたことを鑑賞文として文章に書くことを確認する。
---	---	---

5 板書計画

○全体交流

絵2

右腕を後ろに引いている

右腕を後ろに引いている

絵1

富士山の配置

片側に寄っている

○グループ交流

わたしは、
どこ(着眼点)が
こうなっていて(描き方)、
こうだと感じました・思いました(評価)。

○絵の鑑賞文を書くための大切な観点

絵の魅力を見つけよう。

絵3	絵2	絵1
・背景	・体の線 ・表情 ・動き ・体のパーツ	着眼点
・見事に表している	・勢い ・激しい	描き方
・自然・自由闊達	・見事に表している ・すばらしい・とびきり・モダン・自然	評価の言葉

筆者のものの見方を生かして、鑑賞文を書こう